

第72期中間報告書

平成28年4月1日～平成28年9月30日

ホームページのご紹介

●TOPページ



IRページ
最新のIR情報を提供しています。

純水・超純水 情報サイト
純水・超純水について、わかりやすく解説しています。



プロダクトサイト
標準型水処理機器、水処理薬品から大型水処理関連設備まで、お客様のニーズに合った製品の情報を提供しています。

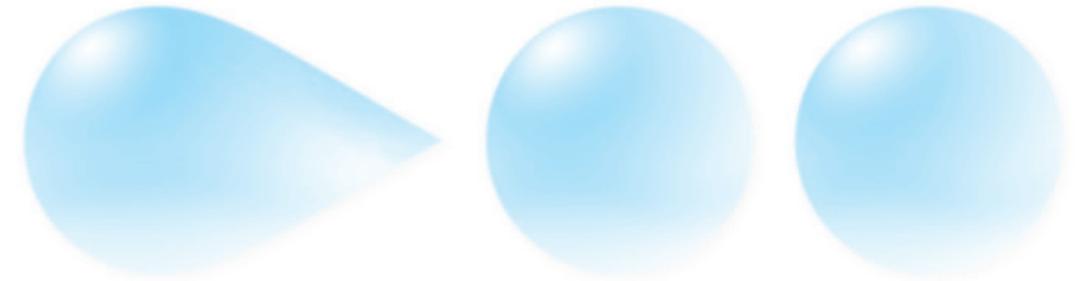


オルガノ株式会社

〒136-8631 東京都江東区新砂1-2-8 経営統括本部
ホームページアドレス <http://www.organo.co.jp/>



オルガノ株式会社



Ecologically Clean

IRカレンダー (平成28年10月1日～平成29年9月30日) ※平成28年12月2日現在の予定です。

■ 第2四半期決算説明会
■ 中間報告書発送

■ 決算説明会
■ 招集通知発送
■ 決議通知・報告書発送



企業コンセプト

Ecologically Clean

企業理念

オルガノグループは
かけがえのない地球の未来を見つめ
“心”と“技”で水の価値を創造する

経営理念

- 地球を大切にす経営
- お客様を大切にす経営
- 人を大切にす経営
- 技術を大切にす経営
- 株主を大切にす経営

株主の皆様へ



代表取締役社長

鯉江泰行

平素は格別のご支援を賜り厚く御礼申し上げます。
ここに当社の第72期事業年度（平成28年度）中間期のご報告をいたします。

1. 当第2四半期連結累計期間の概況

当期間におけるわが国経済は、輸出は力強さを欠くものの企業収益は概ね高水準を維持し、幅広い業種で生産活動が持ち直すなど、回復の兆しがみられました。世界経済においては、米国FRBの利上げ観測によりアジア新興国で景気減速が懸念され、中国でも過剰生産設備の整理による景気下押しが危惧されるなど、全体としては力強さを欠いた状態が継続しました。

当社グループを取り巻く事業環境は、電子産業分野では中国で設備投資拡大が続くものの国内では一部を除き新規投資に慎重であり、国内電力分野では原子力発電所の再稼働が依然不透明な状況です。産業全般でも維持・更新に向けた投資が中心となっており、増設等の能力増強に係る大型投資の動きは勢いを欠いています。

このような状況の下、当社グループは、変化の激しい事業環境に適切に対応し常に3年先を見通した事業運営を継続するため、平成28年4月からスタートさせた中期経営計画においては終了年度を固定せず毎年更新するローリング方式を採用しています。本中期経営計画では、「主要アジア経済圏において、産業が求める品質の水を、最も合理的なコストで、最もタイムリーに提供できる、収益力あるエンジニアリング会社」を中期経営ビジョンと定め、安定した収益基盤構築に向けて、技術力、収益性、実績、市場シェア等において当社グループが強みを有する「電力」「電子」産業分野及び「機能商品事業」の更なる強化を中心とした戦略と施策の立案を進め、取り組んでいます。

この結果、受注高につきましては、国内の一般産業分野、台湾の電子産業向けプラントが好調に推移したものの、国内の電子産業分野や公共インフラ分野で大型案件のあった前年同期を下回った影響などにより減少し、383億円（前年同期比6.1%減）となりました。

売上高につきましては、水処理薬品を中心に機能商品事業が堅調であり、水処理エンジニアリング事業においてもプラント案件が下期から前倒しで進捗するとともに、メンテナンス、改造工事が伸長したことなどにより増加し、343億円（同2.6%増）となりました。

利益面につきましては、機能商品事業において売上高が伸長したこと、水処理エンジニアリング事業において電子産業分野や一般産業分野のメンテナンス、改造工事が好調に推移したことなどから、営業利益6億円（前年同期は営業損失1億円）、経常利益5億円（前年同期は経常損失2億円）、親会社株主に帰属する四半期純利益0億円（前年同期は親会社株主に帰属する四半期純損失2億円）と前年同期に比べ改善いたしました。

当期の中間配当金につきましては、当期間の実績及び通期の見通しを勘案し、前期末配当金と同じく1株当たり5円といたしました。

2. 通期の見通し

当期間は順調に推移したものの、一部案件が上期に前倒しで進捗したこと、下期は電子産業分野を中心に大型案件が見込めず、国内外の産業全般において新規投資に慎重な姿勢が予想されることなどから、通期の業績見通しにつきましては、受注高765億円、売上高790億円、営業利益30億円、経常利益29億円、親会社株主に帰属する当期純利益19億円と期初計画を据え置いています。

3. 今後の経営方針

当社グループは、世界経済の先行き不透明感が継続し、国内製造業における生産拠点のグローバル化が進むなどの厳しい状況のなか、事業ポートフォリオの転換を図り、変化の激しい事業環境に左右されない安定した収益基盤の確立を目標としています。

その実現に向けて、低採算事業の方針と施策の見直し、整理を行い、捻出した資源を当社グループが強みを有する事業分野に対して重点的に投入するとともに、長期的な成長に資する独自性、進歩性の高い製品・技術の開発に注力することで競争力の強化に努めてまいります。また、新たな成長事業の探索・構築に関する検討も合わせて取り組んでまいります。

4. 最後に

当社グループは、長期にわたり発展する企業を目指し、リソースの最適化を図るなど、変革に向けての土台作りに取り組んでまいります。

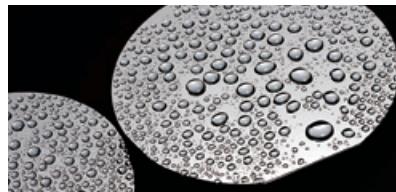
株主の皆様におかれましては、今後ともご支援、ご指導の程、宜しく願い申し上げます。

平成28年12月

▶ プラント事業

電子産業分野

半導体や液晶、各種電子部品・材料の洗浄工程に欠かせない超純水の製造装置をはじめ、各種の排水処理設備、外部へ排水を出さずに循環利用するクローズドシステム、排水からの有価物回収システムなど、電子産業分野においてオルガノは世界トップレベルの技術を誇っています。



一般産業分野

化学、石油精製、食品工業、紙・パルプ、繊維・染色、自動車、メッキ工業など、あらゆる産業に対して、プロセス用水の製造システム、各種の排水処理設備、水の回収・再利用システムなどを提供し、高い評価をいただいています。



電力分野

高い信頼性を求められる火力・原子力発電所向け水処理プラント。オルガノはこの分野で圧倒的なシェアを誇っています。なかでも発電所において主要な水処理設備である復水ろ過・脱塩装置は、オルガノの独壇場として長年トップシェアを堅持しています。さらに、国内のみならずアジア諸国や米国、中東などの発電所向けにも水処理装置を納入しており、その技術力の高さを証明しています。



東京電力㈱ご提供

上下水道分野

私たちの生活に欠かせないライフラインである上水道・下水道。上水道では沈でんろ過、膜ろ過、活性炭やオゾンによる高度処理設備など、下水道では生物処理設備、高速繊維ろ過装置など、オルガノの技術が活躍しています。



医薬品分野

安全性が特に求められる医薬品製造プロセス。ここでもオルガノの高度な技術が活かされています。注射用水をつくる蒸留水製造設備や製薬設備を細菌から守る純粋蒸気発生器など、高純度で発熱性物質（パイロジェン）を含まない、高い安全性をもつ水をつくるシステムを提供しています。



▶ ソリューション事業

メンテナンス

長年培ったノウハウをもとに、水処理装置に関する修理や部品交換、定期点検、保守点検などのメンテナンスを行います。

提案型サービス

既設の水処理装置の状況にあわせて改善・改良を提案します。また、薬品使用量や廃棄物の削減など、環境負荷低減に貢献する提案を行います。

水処理アウトソーシング受託事業

■ 包括メンテナンス

お客様の工場にある水処理装置の点検と消耗品交換などのメンテナンスをオルガノが一括で請け負うことにより、安心して装置をお使いいただけます。

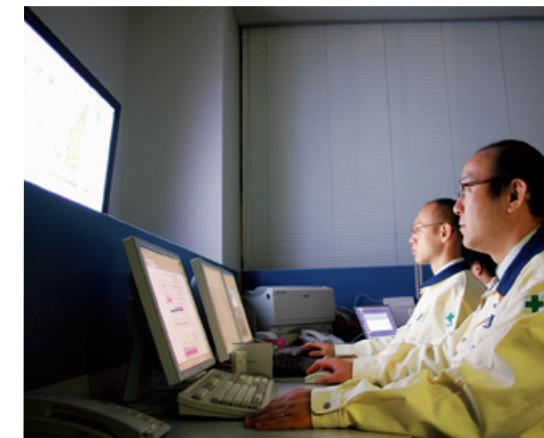


■ 処理水供給

お客様の工場内に設置させていただいた装置を使って、使用量に応じた水処理を行います。お客様のニーズも高まっており、大規模な水処理加工業務を受託しています。

■ 遠隔監視

オルガノ本社にある監視センターで、お客様の水処理装置の運転状況を遠隔監視することで、状況に応じた迅速な現場対応をバックアップします。装置の運転データの変化から異常発生を予測し、水処理プラントの健全な運転に貢献します。



■ 運転管理

ノウハウを有した運転担当者を派遣し、状況に応じた適切な運転管理を行うことにより、お客様の負担を軽減し、安定かつ効率的な運転を実現します。

▶ 機能商品事業

標準型水処理機器

研究所、病院などでの各種分析や検査に不可欠な純水・超純水装置を豊富にラインアップ。お客様の短納期・低コストへのニーズにお応えします。

また手軽に美味しく安全な水を提供できるフィルター型浄水器は、厨房、カフェ、自動販売機など、身近なところで活躍しています。



キャビネットタイプ超純水装置
ビューリックωシリーズ



フィルター型浄水器

水処理薬品

冷却効果を高め省エネにつなげる冷却水処理薬品、ボイラーを効率的に運転する処理剤、廃棄物の削減につながる排水処理剤など、多彩な水処理薬品を取り揃え、装置と組み合わせたトータルシステムを提供することで、安定運転を実現します。



食品加工材

食品安全システムの国際規格であるFSSC22000の認証を受けた工場において、加工食品市場に安心・安全な品質改良剤、食品素材を開発・製造・販売しています。また、介護食、高齢者食など向けに、飲み物や食事にとろみをつけ、食べやすさを配慮した商品もラインアップしています。



イオン交換樹脂

オルガノのコア技術～イオン交換樹脂の用途～

当社の基幹材であるイオン交換樹脂は、水中のイオン類を吸着・除去するという特性を持っていることから、純水やボイラー用水の製造などで広く用いられています。これらに加え当社ではイオン交換樹脂が持つ別の性質に着目し、水処理以外の分野への展開を図っています。

例えば、水族館の水槽に用いられるアクリル板の原料製造工程で化学反応を助ける触媒として利用されています。

また、工場排水から銅やニッケルなどの金属回収の際や、廃液の精製・再利用といった環境負荷低減の用途にも適用されています。



新方式の希薄アンモニア水供給装置を発売

当社は、新たな希釈方式を採用した希薄アンモニア水供給装置「酸還王NH-HR」を発売しました。

従来品と異なりポンプではなく、ガス圧を利用したアンモニアの連続注入機能を搭載することで、安定した濃度での供給が可能となり、製品品質の安定化を図ることができます。

従来の希薄アンモニア水供給装置は、電子産業の半導体製造工程における洗浄用途として、既に国内外で100台以上の販売実績があります。今後この新製品を投入することで、既設置の更新とともに、大規模な投資が計画されている中国の半導体市場に向けて、販売促進に努めてまいります。



希薄アンモニア水供給装置
酸還王NH-HR

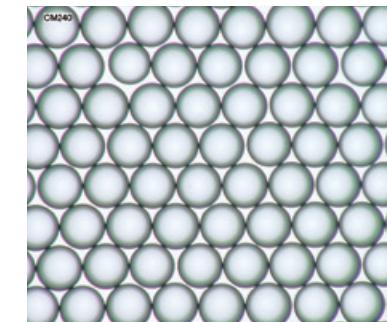
単糖類分離用の新吸着剤を開発、発売

当社は、食品・飲料分野で幅広く用いられている、果糖や希少糖をはじめとする単糖類の精製・分離向け吸着剤「アンバーライト™CR3220Ca」を米ダウ・ケミカル社と共同開発し、発売しました。

多くの成分を含む原料から必要な糖類を分離・精製する際にはクロマト分離と呼ばれる操作が広く用いられています。本吸着剤はこの操作に用いられてきた従来品に比べ、粒径を均一かつ小さくすることで単糖類の分離・精製に適した高い分離性能と耐久性を実現しました。

また、設備の新設・更新時だけでなく、稼働中の従来設備への導入も可能で、そのためのサポート体制も整備しています。

本吸着剤と、当社が有する運転ノウハウやサポート体制を組み合わせたトータルシステムを提案することで、今後用途拡大が進む希少糖市場への拡販と、市場拡大が見込まれるアジア地域への展開を図ってまいります。



単糖類分離用均一小粒径吸着剤
アンバーライト™CR3220Ca (顕微鏡写真)

連結貸借対照表（要旨）

（単位：百万円）

科目	当第2四半期末 (平成28年9月30日現在)	前期末 (平成28年3月31日現在)	比較増減
資産の部			
流動資産	62,755	70,409	△ 7,653
固定資産	24,159	24,386	△ 226
有形固定資産	19,824	20,048	△ 223
無形固定資産	826	667	159
投資その他の資産	3,508	3,670	△ 162
資産合計	86,915	94,795	△ 7,880
負債の部			
流動負債	31,333	38,002	△ 6,669
固定負債	9,627	10,225	△ 597
負債合計	40,961	48,227	△ 7,266
純資産の部			
株主資本	47,063	47,263	△ 200
資本金	8,225	8,225	-
資本剰余金	7,508	7,508	-
利益剰余金	31,669	31,868	△ 198
自己株式	△ 340	△ 338	△ 1
その他の包括利益累計額	△ 1,220	△ 801	△ 418
非支配株主持分	111	106	5
純資産合計	45,954	46,567	△ 613
負債純資産合計	86,915	94,795	△ 7,880

◆**資産の部**
売上債権の減少などにより、7,880百万円減少しました。
◆**負債の部**
仕入債務の減少などにより、7,266百万円減少しました。
◆**純資産の部**
配当金の支払に伴う利益剰余金や為替換算調整勘定の減少などにより、613百万円減少しました。

連結損益計算書（要旨）

（単位：百万円）

科目	当第2四半期(累計) (平成28年4月1日から 平成28年9月30日まで)	前第2四半期(累計) (平成27年4月1日から 平成27年9月30日まで)	比較増減
売上高	34,364	33,479	885
売上原価	26,620	26,820	△ 200
売上総利益	7,744	6,658	1,086
販売費及び一般管理費	7,057	6,846	211
営業利益又は営業損失(△)	687	△ 187	874
営業外収益	66	45	21
営業外費用	220	79	141
経常利益又は経常損失(△)	533	△ 221	755
特別利益	0	-	0
特別損失	154	6	147
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失(△)	378	△ 228	607
法人税等	272	41	230
四半期純利益又は四半期純損失(△)	106	△ 269	376
非支配株主に帰属する四半期純利益	17	8	8
親会社株主に帰属する四半期純利益又は親会社株主に帰属する四半期純損失(△)	89	△ 278	368

◆**売上高**
前年同期に比べ電子産業分野のプラントが減少したものの、一般産業分野のプラント、メンテナンス、改造工事の伸長などにより売上が増加し、機能商品事業においても水処理薬品の販売が伸長したことなどから、売上高は34,364百万円となりました。
◆**営業利益・経常利益**
水処理エンジニアリング事業において電子産業及び一般産業向けメンテナンスが伸長し、機能商品事業の売上が増加したことなどにより、営業利益687百万円、経常利益533百万円と前年同期に比べ改善しました。

連結キャッシュ・フロー計算書（要旨）

（単位：百万円）

科目	当第2四半期(累計) (平成28年4月1日から 平成28年9月30日まで)	前第2四半期(累計) (平成27年4月1日から 平成27年9月30日まで)
営業活動によるキャッシュ・フロー	307	△ 1,432
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 590	△ 543
財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 957	697
現金及び現金同等物に係る換算差額	△ 299	28
現金及び現金同等物の増減額	△ 1,538	△ 1,250
現金及び現金同等物の期首残高	7,207	8,939
新規連結に伴う現金及び現金同等物の増加額	-	51
現金及び現金同等物の四半期末残高	5,668	7,741

◆**営業活動によるキャッシュ・フロー**
307百万円の資金流入となりました。主な資金の増加は、売上債権の減少によるものであり、主な支出は、仕入債務の減少によるものです。
◆**投資活動によるキャッシュ・フロー**
590百万円の資金流出となりました。主な支出は、有形固定資産の取得によるものであります。
◆**財務活動によるキャッシュ・フロー**
957百万円の資金流出となりました。主な支出は、長期借入金の返済によるものであります。

当第2四半期末の現金及び現金同等物は前期末に比べ1,538百万円減少し、5,668百万円となりました。

セグメント別業績

（単位：百万円）

科目	当第2四半期(累計) (平成28年4月1日から 平成28年9月30日まで)	前第2四半期(累計) (平成27年4月1日から 平成27年9月30日まで)
■ 受注高		
水処理エンジニアリング事業	30,211	32,884
機能商品事業	8,120	7,935
■ 売上高		
水処理エンジニアリング事業	26,288	25,677
機能商品事業	8,076	7,801
■ 営業利益又は営業損失(△)		
水処理エンジニアリング事業	△ 133	△ 848
機能商品事業	820	661

【**水処理エンジニアリング事業**】
当事業におきましては、国内において一般産業向けのプラント案件が好調だったものの、電子産業分野や公共インフラ分野で大型案件のあった前年同期を下回った影響などにより受注高が減少しました。海外においても台湾の電子産業向けプラントが好調に推移した一方で、東南アジア地域で前年同期を下回った影響などにより減少しました。
売上高につきましては、国内では電子産業分野の大型案件が減少した一方で、公共インフラ分野が順調に進捗したこと、一般産業分野においてもプラント案件が下期から前倒しで計上され、メンテナンス、改造工事が伸長したことにより増加しました。海外においては現地通貨ベースで東南アジア地域や台湾で増収となったものの、中国で前年同期を下回ったほか、海外拠点における対円通貨安による影響もあり減少しました。
利益面につきましては、売上高の増加とともに電子産業、一般産業分野で比較的採算性の良いメンテナンス、改造工事が好調だった影響などにより大きく改善しました。この結果、受注高30,211百万円、売上高26,288百万円、営業損失133百万円となりました。

【**機能商品事業**】
当事業におきましては、標準型水処理機器が堅調に推移したこと、冷却水処理剤、排水処理剤を中心に水処理薬品の販売が伸長したことなどから、受注高・売上高ともに増加しました。利益面につきましては、売上高の伸長により増加となりました。この結果、受注高8,120百万円、売上高8,076百万円、営業利益820百万円となりました。

注) 本報告書は決算短信などの数値、文章を基に作成しています。その後に公表される可能性がある訂正情報や業績予想の修正情報や決算の詳細につきましては、当社ホームページの掲載資料などにてご確認ください。

会社概要

商号 オルガノ株式会社 (英文 ORGANO CORPORATION)
 創業 昭和21年5月1日
 資本金 8,225,499,312円
 従業員数 連結2,120名 (単体1,033名)
 事業内容 当社は総合水処理エンジニアリング会社として、イオン交換樹脂、分離膜、活性炭等を使用する各種用排水処理装置の製造、販売、メンテナンス及び水処理アウトソーシング受託並びに各種薬品、食品加工材の販売を主な事業としております。

主要な事業所

本社 〒136-8631
 東京都江東区新砂1丁目2番8号
 開発センター 相模原
 工場 つくば、いわき
 支店 北海道、東北、関東、中部、関西、中国、九州、台湾

主要なグループ会社

■ 連結対象子会社

(国内) オルガノプラントサービス(株) (海外) Organo(Asia)Sdn.Bhd.
 オルガノフードテック(株) オルガノ(蘇州)水処理有限公司
 オルガノエコテクノ(株) オルガノ(タイ)科技股份有限公司
 オルガノアクティ(株) Organo(Thailand)Co.,Ltd.
 PT Lautan Organo Water

取締役・監査役・執行役員

取締役社長 鯉江泰行
 取締役兼常務執行役員 奥園修一
 取締役兼常務執行役員 伊藤智章
 取締役兼常務執行役員 堀比斗志
 取締役兼常務執行役員 古内力
 取締役兼常務執行役員 明賀春樹
 取締役 西澤恵一郎
 取締役 永井素夫
 取締役 照井恵光
 常勤監査役 豊田正彦
 監査役 濱田治
 監査役 田中伸二
 常務執行役員 羽多野敦
 常務執行役員 塩見正樹
 執行役員 安藤正士
 執行役員 山口良一
 執行役員 池上理一
 執行役員 福田和久
 執行役員 真鍋敏樹
 執行役員 大賀克巳
 執行役員 中山泰利
 執行役員 國枝達也
 執行役員 浅野伸

(注1) 鯉江泰行は代表取締役であります。
 (注2) 永井素夫及び照井恵光は社外取締役であります。
 (注3) 濱田治及び田中伸二は社外監査役であります。
 (注4) 永井素夫及び照井恵光は東京証券取引所の定めに基づく独立役員であります。

■ その他グループ会社

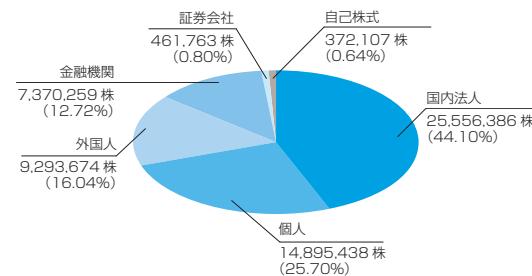
(国内) (株)ホステック (海外) Organo(Singapore)Pte Ltd
 東北電機鉄工(株) Organo(Vietnam)Co.,Ltd.
 Murugappa Organo Water Solutions Private Limited

株式の状況

- 発行可能株式総数 126,960,000 株
- 発行済株式総数 57,949,627 株
- 株主総数 7,004 名
- 大株主(上位10名)

株主名	持株数(千株)	持株比率(%)
東ソー株式会社	23,877	41.20
ビービーエチザアドバイザーズインナーサークル ファンド ツー コベルニク グロ オール キャップ ファンド	1,855	3.20
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	1,052	1.82
株式会社みずほ銀行	1,000	1.73
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	914	1.58
みずほ信託銀行株式会社	775	1.34
オーエム44ステートストリート808359クライアントオムニ	644	1.11
CBNY-GOVERNMENT OF NORWAY	629	1.09
ステート ストリート バンク アンド トラスト カンパニー	600	1.04
ビービーエチ カストディアン フォー ビービーエチディー エスアイエイ ヘパゴン ファンド ビーエルジー コベル620357	524	0.90

● 所有者別株式分布状況



● 株価及び売買高の推移



株主メモ

事業年度 毎年4月1日から翌年3月31日まで
 定時株主総会 6月
 基準日 定時株主総会の議決権 3月31日
 期末配当 3月31日
 中間配当 9月30日
 単元株式数 1,000株
 公告掲載方法 電子公告
 公告掲載アドレス <http://www.organo.co.jp/>
 ただし、事故その他のやむを得ない事由によって電子公告をすることができない場合は、日本経済新聞に掲載して行います。
 株主名簿管理人及び特別口座の口座管理機関 三井住友信託銀行株式会社
 連絡先 〒168-0063
 東京都杉並区和泉二丁目8番4号
 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部
 電話照会先 電話0120-782-031 (フリーダイヤル)
 受付窓口 三井住友信託銀行株式会社 全国本支店
 ホームページアドレス <http://www.smbj.jp/personal/agency/index.html>
 上場証券取引所 東京証券取引所(市場第一部)

株式に関する諸手続きのお申し出先について

■住所変更、配当受領方法の指定、単元未満株式の買取請求及び買増請求などの株式の諸手続きにつきましては、お取引のある証券会社にお申し出ください。
 ■証券会社に口座がないため、特別口座が開設されました株主様の株式の諸手続きにつきましては、特別口座の口座管理機関である三井住友信託銀行株式会社にお申し出ください。
 ■未受領の配当金のお支払につきましては、株主名簿管理人である三井住友信託銀行株式会社の全国本支店(コンサルティングオフィス・コンサルプラザを除く)でお取り扱いいたします。

中間配当金のお支払についてのご案内方法

中間配当金お支払についての取締役会決議の内容は、郵送による通知に代えて、当社ホームページ (<http://www.organo.co.jp/>) 上でご案内させていただきます。